

1. 教育の責務

2019 年度の担当科目は（表 1）の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
図画工作	2019	前期	1 年生	演習	23 名 24 名 23 名	3 グループ
造形表現の探究	2019	後期	1 年生	演習	23 名 24 名 23 名	3 グループ
子ども文化演習 B 劇	2019	後期	2 年生	演習	71 名	4 クラス ※教員 3 名
総合演習	2019	通年	2 年生	演習	71 名	4 クラス ※教員 4 名
スキルアップセミナー	2019	通年	2 年生	演習	71 名	4 クラス ※教員 4 名
乳児小児救命法	2019	後期	2 年生	集中	45 名	希望選択者 ※教員 1 名 インストラクター 3 名

（表 1）2019 年度 担当科目詳細一覧

2. 教育の理念

図画工作や造形表現の授業では、制作のための単なる技術的な指導ではなく、その技術や活動が子どもと共有する世界のどこに連なっていくのかといった視点を身に付けることが求められる。また、その内容が手や指先、行為を通じた理解という、教科書的な知的理解の方法とは少し離れたところにあり、描画や制作が中心であるというところで、保育の現場に直接的な関わりを多く持っているといえる。私が学生たちに望み、指導していることは、ものを作ることや手を動かすことへの興味とその中での発見や感動が、人間の営みとどういう関係性を持ち、人間の発達と教育にどう関わるかといったことへの興味に繋げることである。

3. 教育の方法

(1) 図画工作

図画工作の授業は、形として目に見える極めて分かりやすい演習科目であり、多くの保育実技をその範疇に含んでいるといえる。そのために前半 7 回の授業でしっかりとした基礎的な技法を学ぶ。この基礎技法は「技法遊び」として多くの保育園、幼稚園で行われていて、学生自身も幼いころの経験から記憶に残っている内容である。それらの基礎的技法の習得の中で、絵の具やクレヨンを使用する方法や絵の具の混色、制作の準備から片付けまでの工程を実際に体験しながら学ぶ。また、ハサミやノリの扱い方や、紙を手で割く、千切る、揉む、伸ばすなど、紙の材質感や特徴を理解させ制作や表現の幅を広げさせる。授業終了 10 分前には配布レジュメに・使用した材料と用具・体験からの気づき・自分なりの工夫を文章として書き込みまとめる。

■標準的授業進行

- ① 毎回の授業レジュメとなるプリントを配布し、黙読させ文章によって内容を理解をさせる。
- ② レジュメを読み上げながら口頭で説明し、図解など必要であれば板書して要点を示す。
- ③ 学生たちを教員のそばに寄らせ、実際の制作過程をやってみせる。
- ④ 学生の理解と意欲を確認して、終了時間を知らせて制作活動に入る。
- ⑤ 教室内を巡回しながら、個々にアドバイスと、質問に応じる。
- ⑥ 出来上がった作品を鑑賞しながら、良い点を評価する。(学生の様子を見極めながら良い点と改善の方法を個別に指摘する。)

後半の 4 回の授業は、主に家庭にある材料を使った工作を行う。ここでは簡単な工夫で大きな効果を得られる仕掛けや方法について学び、基礎的技法を応用した制作を行う。残りの 4 回の授業では一つの作品を時間をかけて丁寧に制作し、達成感のあるものになっている。

(2) 造形表現の探究

造形表現の授業では、「感じ取る」という心の態度を子どもへの理解のキーワードとした授業内容を展開している。図画工作で学ぶ制作への基礎的な理解を基に、グループワークによる協働でスケール感のある大胆な表現ができるようにしている。また、制作や遊びを自分自身で考え展開できるようになることを目標にしている。個人としての制作が主な図画工作との内容の違いはあるが標準的授業進行は概ね同じである。以下いくつかの活動の具体例を示す。

- ・新聞紙遊び

1、2回は新聞紙を使い、一人の遊びから発展させ、2人～3人、さらに全体での遊びへと展開させる。3回目は新聞紙を使ったごっこ遊びを通して授業を進行しながら人との関りを広げていく。

- ・等身大の友達を描く

ビニールという透明な素材にクレヨンで等身大の友達の姿を描く。①透明な素材に描く②等身大の人物画を描く③人の動きを時間の経過ととらえ作品の中に閉じ込める。制作に時間の概念を加えることで表現の幅を広げ、作品に芸術性を持たせるようにした。友達と自分(モデルと制作者)の制作したものを全体での共同制作として完成させる。身近な友人の見慣れた姿や動きを写し取る活動で、和気あいあいとした雰囲気の中で人との関係性を意識できるように考えた。

- ・自然環境を取り入れた制作

空気を究極の自然素材ととらえて遊ぶ方法について考えた。空気の組成や、重さ、気圧について基礎的な理解を進める。大型のポリ袋(ゴミ袋)を長くつなげて巨大なロケット型の風船を制作し、大きさと重さのアンバランスな感覚の面白さを感じ取らせる。遊びの中から感じ取れる感覚を自然科学に裏付けされたこととして学びが得られるようにした。

- ・アートの森をつくる・卒業生の木

学舎を取り囲む森や丘陵などの自然環境などの外のイメージを学生自身が仲介者となり建物内の壁面に再構成する。自分自身を一枚の葉っぱに見立て、壁面に描かれた樹木や木枝のレリーフに張り付ける。一枚の葉っぱが集まり数年で一本の木に、やがて森になっていく。時間を越えて母校に在籍の記録を残すプロジェクトとして考えた。

- ・自分自身を確かめるための小さなオブジェ制作

ドングリを題材として扱った童話や童謡、アニメなどの話の中から[ドングリの背競べ]という言葉キーワードとして、自分をドングリに見立て、自分自身を取り巻く世界を透明なポリカップの中に表現する。未来に向かう現在の自分自身を俯瞰して考えることをテーマとした。

- ・子どもの絵の発達段階を学ぶ・子どもの絵に現れる特徴を理解する。

なぐりがきから図式期へ至る子どもの絵の発達について①発達の段階別に現れる事象をキーワードとして板書する②配布プリントを読みながら、ポイントを板書と照らし合わせて確認する③実際の子どもの絵を見ながらプリントと照らし合わせながら確認する。という、同じ内容を違う方法で3回繰り返しながら理解を深められるようにした。

(3) 乳児幼児救命法

この授業の目的は、乳幼児の保育現場における事故防止と、緊急時に医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当を習得することにある。子どもの緊急時とは、生命の危機が迫っている場合、重い後遺症が残る可能性がある場合（脳障害や頸椎損傷等）である。

これら緊急時の優先順位に基づき、実際のステップに沿って内容を進める。開講時期を卒業年次生が就職を控えた1月の集中講義にすることで、実際の保育を意識した学びになるようにした。

授業内容は「事前指導」で受講の方法と心構え・保育園、幼稚園での子どもの事故の事例を挙げ、その法的な責任などについて学び、受講の前後での認識の違いを「事後指導」で確認できるようにしている。「中間試験」は1、2日の講義内容と実技の認識度を計るための試験を実施する。「事後指導」全過程について3日間に分けて振り返りを行う。

授業	期 日	時 限	授 業 内 容
1	1/16	3 限	事前指導・受講の方法と心構え、事故等の事例
2	1/29	1 限	こどもの事故の現状、応急手当とは、医師や救急車への連絡、当初の観察と接触、生の徴候の調査、反応のない子どもの手当、心肺蘇生法 など
3	1/29	2 限	
4	1/29	3 限	
5	1/29	4 限	
6	1/30	1 限	気道内異物の除去、止血とショック管理、けがの調査と手当、各部のけがと応急手当、子どもの急病、日常的なこどもの病気の手当 など
7	1/30	2 限	
8	1/30	3 限	
9	1/30	4 限	
10	1/30	5 限	中間試験
11	1/31	1 限	生物によるけが、子どもの虐待、災害時の注意、心肺蘇生実技 など 実技・認定試験
12	1/31	2 限	
13	1/31	3 限	
14	1/31	4 限	
15	1/31	5 限	事後指導（まとめ、レポート）

参考(2018年度・実施日程)

担当教員と3名のインストラクターが協働して最大50名の指導に当たる。実際の保育現場での事故を想定した内容を重視し、従来の心肺蘇生方や除細動器の使用法に加え、事故発生時の初期判断(通報)、怪我への対処、止血方法、異物除

去の方法を映像を交えた講義により概要を把握する。その後、2 人一組の実習によって体験的に学ぶ。また、乳幼児突然死症候群について学ぶ。

いずれの実践も幼児、小児に特化して学びの意味を明確に伝え実際の保育を意識した学びになるようにしている。

4. 教育の成果、評価

2019 年度の前期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。問 4：総合評価、問 1：学生自身の取り組み、問 2：授業の内容、問 3：授業方法はそれぞれ、(表 2) のとおりである。※6.エビデンス一覧集計表参照

図画工作	A グループ	B グループ	C グループ
問 4	4.51	4.75	4.60
問 1	① 4.78② 4.35③ 4.26 ④ 4.52⑤ 4.48	① 4.63② 4.21③ 4.08 ④ 4.25 ⑤ 4.33	① 4.80② 4.15③ 3.75 ④ 4.10 ⑤ 4.42
問 2	① 4.61② 4.65③ 4.57 ④ 4.74	① 4.67② 4.92③ 4.88 ④ 4.88	① 4.47② 4.70③ 4.70 ④ 4.70
問 3	① 4.70② 4.74③ 4.61 ④ 4.65⑤ 4.57⑥ 4.65	① 4.96② 4.96③ 4.92 ④ 4.88⑤ 4.92⑥ 4.96	① 4.85② 4.85③ 4.89 ④ 4.80⑤ 4.85⑥ 4.90

(表 2-0) 2019 年度の前期授業アンケートの結果一覧

造形表現	A グループ	B グループ	C グループ
問 4	4.48	4.43	4.76
問 1	① 4.52② 4.26③ 3.91 ④ 4.35⑤ 4.04	① 4.48② 4.14③ 3.90 ④ 4.24 ⑤ 4.14	① 4.62② 4.33③ 3.81 ④ 4.05 ⑤ 3.81
問 2	① 4.30② 4.30③ 4.39 ④ 4.35	① 4.29② 4.52③ 4.43 ④ 4.48	① 4.43② 4.57③ 4.62 ④ 4.76
問 3	① 4.65② 4.61③ 4.57 ④ 4.57⑤ 4.52⑥ 4.48	① 4.52② 4.43③ 4.38 ④ 4.48⑤ 4.38⑥ 4.48	① 4.81② 4.81③ 4.71 ④ 4.81⑤ 4.81⑥ 4.86

(表 2-1) 2018 年度の後期授業アンケートの結果一覧(参考)

乳児小児救命法	37 名
問 4	4.86
問 1	① 4.92② 4.78③ 4.46④ 4.81⑤ 4.68
問 2	① 4.84② 4.89③ 4.86④ 4.92
問 3	① 4.89② 4.86③ 4.86④ 4.86⑤ 4.89⑥ 4.86

(表 2-2) 2018 年度の後期授業アンケートの結果一覧(参考)

単独で担当している科目は、図画工作、造形表現の探究の 2 科目であることから、その 2 科目を中心に考察を進める。

(1) 図画工作

図画工作に関して、学生からの総合評価では A、B、C グループの合計「4.62」の数値が出た。昨年度は合計「4.41」であったため「0.21」ポイント上昇した。自由記述からは「説明が分かりやすい」「物づくりに楽しさを覚えた」「懐かしさを感じながらできた」という前向きな記述が多く、図画工作に関して自らの経験とをつなぎあわせた学びをしていることが分かった。つくることを嫌いにさせないという図画工作の最低目標は達成できたと考える。一方で、「話すスピードが速い」との意見もあり、自分自身のウィークポイントを改めて認識した。

(2) 造形表現の探究

造形表現の探究に関しては、2018 年度後期開講の「造形表現」のアンケート結果を基に記述する。(2019 年度より科目名が変更された)

自由記述に「毎回楽しい、雰囲気がいい」「分かりやすく興味がわく」「絵をかいて説明してくれる」等の評価があった。

毎回、課題終了後に次回の内容説明に時間をかけ課題の連続性を通して授業への興味を継続させることができた。また、実習での経験や自分の子どもの頃の記憶に残っている実技の追体験など臨場感のある授業を常に心がけてきた。例えば子どもの絵の発達段階の中で用いる絵は、映像を通さず実物を直接触ったり、見たりすることで、紙の汚れやクレヨンの筆圧による子どもの様子など感じ取れるように考えた。これらが学生にとって解りやすい授業内容になった様である。

また、グループワークを多くすることで、人と直接関わることを通した学びが得られるようにした。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 図画工作

・短期的目標

板書による図解、話し方のスビートなど、目で見えて解りやすく、聞き取りやすい授業への改善をする。

即効性・実効性があり、誰がやっても色や形がオートマチックに現れる技法や教え方を開発する。

・長期的目標

図画工作は保育現場のものづくりに直接的に影響する内容なので、学生が制作を特別なものではなく、身近で楽しいものと感じ「作ることを嫌いにさせない」ことを指導の最低目標としている。

今後は学生たちが子どもたちの楽しさと自分たちの楽しさを重ね合わせて考えやすい方法を研究し、作ることを通した子ども理解の方法につながるような高い目標設定を目指したい。

(2) 造形表現の探究

・短期的目標

子どもの絵の発達については、実物を見ることと、実際の動画などを組み合わせて臨場感のある授業展開を考える。

・長期的目標

10年前の学生に比べると、全般的に理解力の低下や、それに比例したように手指の萎えが見受けられる。また子どもへの理解や感じ取ろうとする意識が希薄で、制作の楽しさが保育に対する興味に繋がらない学生が多くなったように思える。図画工作の授業との連続性を意識して、手指を通した理解が知的理解につながるような授業内容を開発していきたい。また、保育雑誌によくある紙コップや紙皿を使った工作や指導側の意図による可愛い的な壁面制作ではない、真の意味で子どもの側に立った造形表現を探究する。

6. エビデンス一覧※

(1) 各科目シラバス（図画工作、造形表現の探究、乳児小児救命法）

(2) 授業時配布プリント(一部)（図画工作、造形表現の探究）

(3) 試験問題（図画工作筆記試験、造形表現の探究筆記試験）

(4) 授業アンケート集計票